

なんのゆうこ 市政報告

NEWS Report 2025.3 vol.3



日本維新の会
神戸市議員団HP

令和7年度

Nanno Yuko



2月25日 神戸市会 本会議

予算代表質疑をおこないました!

1 神戸市の子育て支援の充実について

Q. なんの質問

神戸市は「共働き子育てしやすい街ランキング」で全国1位を獲得しました。どの点が評価されたと考えていますか? また、来年度から始まる次期「神戸っ子すこやかプラン」の方針についてお聞かせください。



A. 市長 答弁

神戸市が全国1位に選ばれた理由として、待機児童ゼロの維持、病児保育の充実、保育士の処遇改善、学童保育の希望者全員受け入れ、夏休みの給食提供などが評価されました。さらに、産後ケア事業の利用率の高さや、子育てチームアドバイザーの配置など、神戸独自の見守り支援も充実しています。今後も地域と協力しながら、切れ目のない子育て支援を強化していきます。次期「神戸っ子すこやかプラン」では、**ニーズ調査**を実施し、**子育て世帯の意見**を取り入れながら施策を検討します。

Q. なんの質問

2位の宇都宮市とは僅差だったため、1位になったことに満足せず、さらに子育て施策を充実させてほしいと考えます。また、産後ケア事業では、電子申請の手続きが煩雑で、親の負担になっているとの声があります。

行政手続きのDX(デジタル化)を進め、マイナンバーや母子手帳と情報を連携させるなど、負担軽減策を検討すべきではないでしょうか。



2月25日 神戸市会 本会議

A. 市長 答弁

産後ケア事業を含め、神戸市の行政手続きの煩雑さに対する市民の不満は認識しており、**抜本的な改善を進める**考えです。

なんの意見

「子育てのしやすい街」として評価されたことは素晴らしいことです。子どもたちの笑顔を守り、この子どもたちが将来、「また神戸市に戻って子育てしたい」と思えるようなまちづくりを進めてほしいと思います。

2 独り親家庭への就労支援について



Q. なんの質問

独り親家庭の貧困率は約5割とされています。神戸市でも国の助成を活用し、市内の民間企業やNPO法人と協力しながら、独り親家庭を支援する事業を構築してはどうかと考えますが、市の見解をお聞かせください。

A. 副市長 答弁

神戸市はこれまで、「子育て生活支援」「就業支援」「養育費確保支援」「経済的支援」の4本柱で施策を展開してきました。今年度からは「神戸市ひとり親家庭のワンストップ就業支援事業」を開始し、就労準備から就職後のフォローまで一体的に支援しています。国が想定する一体的支援は、すでに神戸市でも実施しているところですが、関係機関と連携し支援をおこなってまいりたいと考えております。

キリトリ線



市政アンケート

神戸市政に対する **ご要望・ご意見** がありましたらお聞かせください。よろしく願いいたします。

〈切手は不要です〉

キリトリ線

予算代表質疑の続き...



2月25日 神戸市会 本会議

3 学びの多様化学校「みらいポート」について

Q. なんの質問

今年4月、神戸市初の学びの多様化学校「みらいポート」が開校予定です。不登校生徒へのきめ細かな支援が期待されています。他都市にはない教育環境を目指すべきと考えますが、教育委員会の考えをお聞かせください。

A. 教育長 答弁

中学生を対象とした分校型の学びの多様化学校を、今年4月に男女共同参画センターあすてっぷKOBE内に設置します。授業数を減らしながらも**基礎学力を確保し、高校進学を目指す**特別な教育課程を編成します。また、体験活動を多く取り入れ、社会的自立に必要なコミュニケーション能力の育成や、生徒個々の学習状況に応じた柔軟な対応を行います。「未来タイム」「ことば」「からだ」「キャリアデザイン」といった独自科目を設け、学習の不安を解消しながら、自己肯定感や達成感を高める支援をおこなっていきます。

Q. なんの質問

近年、動物福祉やeスポーツなど特色ある専門学校が増えています。専門学校との連携を進め、**生徒の進路選択の幅を広げては**どうでしょうか。例えば、動物福祉の専門学校と協力し、動物とのふれあいを通じたセラピー効果や将来の進路支援につなげることができるのではないのでしょうか。

A. 教育長 答弁

不登校生徒が多様な経験をすることは非常に重要です。「みらいポート」では、生徒の興味・関心を大切にしながら、専門学校等との連携も含め、多様な学びの場となるよう取り組んでいきます。

LINEやハガキで、ぜひご意見をおよせください。

キリトリ線

POST CARD

6 5 0 8 7 9 0

924

(受取人)

神戸市中央区加納町 6-5-1

神戸市役所 1 号館 29 階

日本維新の会

神戸市議員団 行

(担当:なんの ゆうこ)

料金受取人払郵便

神戸中央局
承認
1706

差出有効期間
2027年3月19日まで
切手は不要です



キリトリ線

よろしければお名前、ご連絡先、ご住所をお書きください。

フリガナ	
ご芳名	
TEL	— —
ご住所	
メール アドレス	@

※ご協力いただきまして誠にありがとうございます。いただきました情報は、市政に関する改善や施策の参考とさせていただきます。目的以外には使用いたしません。

4 ジェンダー・障がい者に配慮した避難所整備について

Q. なんの質問

阪神・淡路大震災から30年を迎え、市民の防災意識が高まっています。能登半島地震の避難所では**授乳スペースや男女別更衣室、障がい者への配慮が不十分だった**と聞きます。神戸市の状況と今後の取り組みについてお聞かせください。

A. 市長 答弁

神戸市では、妊産婦・乳幼児、高齢者、障がい者など一般の避難スペースでの生活が困難な方のために、**多目的室や特別教室を活用した福祉避難スペースを整備**しています。また、プライバシー確保の間仕切りや更衣用テントの設置、簡易ベッドの追加配備を進めています。

さらに、福祉避難スペースでの生活が難しい方には、市内405か所の福祉避難所(高齢者・障がい者施設)を指定し対応しています。女性の性被害防止のために警備事業者と協定を結び、避難所での巡回警備を実施していきます。今後は、簡易ベッドや間仕切りテントの追加配備、外部給電システムや衛星通信回線の導入、ポータブル電源の設置を進めます。また、「避難所開設運営マニュアル」を簡素化し、女性や障がい者への配慮事項を分かりやすくまとめ直し周知していきます。

5 区役所業務改革について

Q. なんの質問

「働き方改革」の一環として、一部の区役所で窓口業務の民間委託が進められてきました。しかし、他区への拡大が見送られ、先行実施区でも直営に戻す予定と聞いています。なぜ方針を変更し、直営に戻すことになったのでしょうか？また、民間委託による業務改革の効果についてお聞かせください。

A. 副市長 答弁

R3年度から兵庫区役所・北神区役所、R5年度から長田区役所・西区役所で民間委託を実施しました。しかし、**派遣人件費の高騰により継続的な財政効果が見込めず**、他区への展開を見送ることになりました。すでに委託している区については、契約更新時期に委託費の水準やDX化の進展を考慮し、公募の実施を判断します。ただし、R7年度予算編成の議論で、兵庫区役所・北神区役所の外部委託の公募はおこなわないこととしました。

Q. なんの質問

民間委託によって職員数を減らしてきたため、直営に戻することで市民サービスの低下を懸念する声があります。**DXをさらに推進し、市民が安心して行政サービスを受けられるよう、また職員の負担が増えないようにすべきではないでしょうか？**

A. 副市長 答弁

R7年9月の委託期間終了後も市民サービスに影響がない体制を確保することが重要と認識し、対応していきます。**DXの活用や業務効率化を進め、委託前よりも効率的な体制で行政サービスを運営していく考え**です。また、電子申請の拡充や、より多くの市民に利用してもらうための広報活動にも積極的に取り組んでいます。

なんの意見

民間委託が直営に戻ること、現場の職員は困惑しているとの声もあります。これ以上、職員の負担が増えないよう十分配慮していただきたいです。

なんのゆうこの提言が実現！

～神戸市防災会議に「女性部会」設置決定～

2月25日の神戸市会予算代表質疑において「ジェンダー・障がい者に配慮した避難所」について神戸市に提言をおこないました。この質問の後、市は防災対策の見直しを進め、3月27日に開かれた神戸市防災会議において、新たに「女性部会(仮称)」を設置することを決定しました。

この部会では、避難所の運営や物資備蓄について女性の視点を反映させるための議論が行われる予定です。「すべての市民が安心して避難できる環境づくり」という視点を忘れず、今後も質問・提言を重ねてまいります。

6 DV加害者プログラムの導入について

Q. なんの質問

児童虐待、特に心理的虐待が年々増加しています。面前DV(子どもの前で配偶者に暴力を振るう行為)も心理的虐待にあたり、子どもの発達や精神面に大きな影響を与えます。DV被害者は転居や生活の負担が重く、子どもも転校を余儀なくされるなど、**多大な影響**を受けます。神戸市でも「**加害者プログラム**」を導入し、加害者の更生に取り組むべきではないでしょうか？

※「加害者プログラム」とは、DVの再発防止を目的とし、専門家の支援のもと加害者にDVの知識や被害者への影響を学ばせ、行動の変容を促す取り組み。被害者の生活負担を軽減するため、近年、地方自治体も導入を推進している。

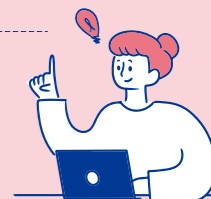
A. 副市長 答弁

神戸市では警察やシェルターなどと連携し、安全確保を最優先に、被害者と子どもの心理的ケアや自立支援に取り組んできました。「加害者プログラム」の実施には、加害者対応機関(警察など)と被害者支援機関(DVセンターなど)の連携が不可欠です。しかし、**現在プログラムを実施できる団体が地域内に存在せず、関係機関の連携体制も整っていない**ため現時点での導入は難しいと考えていますが、県警との連携も含めて兵庫県に対して働きかけていきたい。

2月5日こども家庭庁との意見交換



神戸市議員団有志で、東京の参議院議員会館を訪問。こども家庭庁の職員(国の職員)からレクチャーを受け、子ども・家庭政策の最新情報を学びました。市政に生かし、神戸の未来をより良くしていきます！



未来のアスリートを育む！ 神戸のスポーツ教育のさらなる充実へ

プロスポーツチームとの連携強化で、子どもたちに本物の体験を！

Q. なんの質問

2019年のラグビーワールドカップ開催を契機に、市内でラグビーへの関心が高まり、コベルコ神戸スティーラーズと連携したタグラグビー教室などが実施されてきました。このような状況をふまえ、決算委員会においては、子どもたちが本物のスポーツに触れる機会を増やすことの重要性を強調しました。

POINT

▶ 子どもたちがトップアスリートと直接ふれ合うことで、さまざまなスポーツに興味を持つきっかけになると評価し、今後もこうした取り組みを継続・拡充するべきだと提案する内容で質問をおこなっています。

POINT

▶ また、市内にはサッカー、ラグビー、バスケットボールなどのプロスポーツチームが拠点を置いていることから、出前授業の拡大を検討し、まだ実施していない競技も含めてより多くの子どもたちがスポーツに触れられるようにすべきではないかと問いかけました。



タグラグビー出前授業

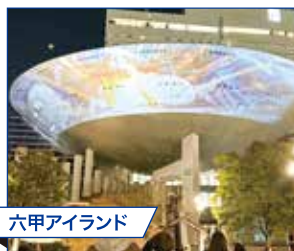
A. 教育委員会 答弁

教育委員会からは、子どもたちの運動意欲を高めるためには「本物に触れる機会」が重要だと考えており、これまで文化スポーツ局と連携し、ヴィッセル神戸やINAC神戸レオネッサなどのプロチームによる出前授業を実施してきた内容の答弁がありました。

2024年度からは、女子フットサルのアルコ神戸や兵庫県ラグビー協会による授業も開始され、対象が幼稚園・保育園にも広がっています。今後も市長部局や民間事業者と協力し、出前授業の充実を進めていく方針が示されました。

また、文化スポーツ局からは、ラグビーワールドカップ2019の功績として、小学校でのタグラグビー実施率が93%と全国トップクラスにあることや、ラグビーを身近に感じられるよう、須磨海岸や神戸まつり、元町夜市などのイベントでラグビー体験コーナーを設置し、競技への関心を高める取組を進めると説明がありました。今後もこうした活動を継続し、子どもたちが多様なスポーツに触れる機会を増やしていく考えが示されました。

「AI都市神戸」の実現に向けた新たな挑戦！ 活力あるまちづくりを推進



六甲アイランド



六甲アイランドのプロジェクションマッピングが進化！

住民の声を活かした新たな取り組みを提案

Q. なんの質問

昨年の5月議会では、日本唯一の「マイクロソフトラボ」と連携し、AI人材の早期育成を進めることで、若者の就労機会を増やし、「AI都市神戸」としての発展を図るべきだと提案しました。また、「AI甲子園」などの大会開催を通じてPRを強化し、神戸市の経済活性化につなげることも検討すべきだと訴えました。

A. 市長 答弁

市長は、既存の取り組みをつなげ、新たなコンテンツと融合させることが重要であり、その方向で取り組むべきだと考えていると述べました。具体例として、日本最大規模の「日展」開催に合わせた関連イベントや、六甲アイランドの「ROKKO PARK」と連携したプロジェクションマッピングを

挙げ、地域イベントとの相乗効果を狙った取り組みを推進していると説明しました。また、今後は若手クリエイターによる作品コンテストの開催や、令和7年春に予定されているグランピング施設の開業に合わせた島内施設との連携企画を検討中であると答弁。引き続き、既存コンテンツをつなぎ、まちの集客力・回遊性を高める取り組みを進めるとの発言がありました。

なんの意見

この答弁を受け、六甲アイランドのプロジェクションマッピングについて、お披露目式に参加した際の住民や来場者の声を紹介しました。特に、映像が繰り返して飽きる、神戸市や東灘区の要素をもっと取り入れてほしいという意見があったため、市に対し今後の工夫を求めました。